安西冬衛全集

第十巻

安西冬衛全集

第十卷

宝文館出版

安西冬衛全集　第十卷

昭和五十七年十月三十日　第一刷發行

定價　四二〇〇圓

著者　安西冬衛

編者　山田野理夫

發行者　羽生和男

發行所　寶文館出版株式會社
東京都千代田區神田神保町三ノ一七
郵便番號一〇一
振替東京五―二八〇
電話〇三（二六一）四四〇九

印刷所　中臺整版
製本所　黑岩大光堂

©1982 Misaho Anzai

Printed in japan

0395―001248―7715

目

次

日記四

昭和三十一年（一九五六）……5
昭和三十二年（一九五七）……54
昭和三十三年（一九五八）……83
昭和三十四年（一九五九）……114
昭和三十五年（一九六〇）……130
昭和三十六年（一九六一）……178
昭和三十七年（一九六二）……238
昭和三十八年（一九六三）……297
昭和三十九年（一九六四）……337
昭和四十年（一九六五）……374
後記……399

裝釘　濱田濱雄

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日記　四

昭和三十一年（一九五六）―昭和四十年（一九六五）

昭和三十一年（一九五六）

一月十日（火）晴　寒

十日えびすのことを調べる。今宵の放送のメモ。ひるすぎ小篠淳子来賀。わが家の三人娘の一人なり。去年三月結婚後はじめて、暮から正月へ主人の郷里熊本へ帰省してきた話。お土産に朝鮮飴一箱。蒸ずしを馳走。四時に放送局へゆくため三時前車をよび一緒に出る。途上叔母の家まで送りとどけ、堺駅までのる。

ナンバから車でBKへ、途中、車のゆくてを妨害する車あり。五階第一応接で衣笠プロデューサー、長浜部長に会う。五時担当のアナ二人と同車、ヱビス神社へゆく。天王寺公園前で車右折禁止、アベノ廻りでヱビスへ出、それから歩いて神社に到る。社務所で待機。六時四十五分から実況放送、アナと応答、それにいささかの感想。賽銭をうけとりにきている銀行の支店長、福娘と対談。

福笹をもらい、社前の大群集の中を泳いでやっと電車道まで出る。弥彦の事件を彷彿とさせる人の波。車で西門前に出、別れて油忠で蕈子折を買い、茶臼山へ寄って、福笹をおいて小談、九時すぎ別れて帰宅。土産にすし一折。けふの放送大にいばっていたと笑はれる。

読売から人生案内二通。

一月十一日（水）雪のち曇　雨

夜中に雪。屋根、樹木、三盆白をかけたほど。季節風まだ断続、午后雨風をよぶ。のち晴れる。寒さはよほど和ぐ。

教映委の試写不参。のんびり家ごもりをたのしむ。美佐保蘭の実を髪につけて、羽織を縫う。午前中客相つぐ。堺化学から原稿、「たばこ」から同じく。中田雄康さんから本復祝の饅頭到来。島田義和氏に弔電を打つ。

夜、鋤焼を囲む。

和田徹三へ速達、原稿訂正。

一月十二日（木）晴　温

十一時会議所へ寄り、ロータリー会費六千円納入。伊藤会頭に挨拶。

阪堺線でヱビスへ出、市電でナンバ、高島屋の中をぶらつき一時前大映試写室に到る。「義仲をめぐる三人の女」の試写。二時間たっぷり。ユトワールで審査会、推薦と決る。

市電でアベノへ出、車で松崎町、安倍氏のアトリエに新年花小品の展覧をみる。井上覚造と合う。茶室に「春」を飾ってある。薄暮、辞して帰る。焚火。井上覚造はむしようかんの如き人物。
アベノから家へ電話、用事のないことを確めて上町線で帰途につく。丁度退け時で電車満員。

一月十三日（金）晴　曇　寒

終日無為。朝、美佐保髪を結いにゆく。留守にロータリーの原稿をとりに印刷ヤ来る。
夜、堺現代詩の会の若い人二人来訪、面会をことわる。雑誌を置いて彼等去る。

一月十四日（土）晴

美佐保上阪、買物と茶臼山ゆき。二郎のために靴とズボン。毎日からラジオ評の稿料。人生案内執筆。ホームソングの校訂。

一月十五日（日）晴

美佐保買物に上阪、茶臼山へ寄る。一郎ら映画ゆきで留守。
高島屋で服地を買い、むらすずめ、タルト、草加せんべいを買ってくる。
小正月と成人の日と日曜重なって、今朝大劇前で美空ひばりのアトラクションに殺到した少女ファン圧死事件起る。

一月十六日（月）晴　一時くもり

羽衣へ出講。十日戎の話と上田秋成の文章について。
夕方、島谷富美子来訪、わが家の三人娘のひとり、美佐保の頭かざりの蘭の実をほめる。一顆を進呈、ユーカリの実二つ進呈、イヤリングにするという。紡スイ形のサイホウ道具いれを進呈。
夜、チェーホフの「熊」の放送をききながら半分ねてしまう。はげしい女地主と熊との会話のやりとり、半分は夢の中に入ってしまう。「からすむぎ」と「ななかまど」
けふからラジオ歌謡「松原松風」はじまる（金曜まで）。

一月十八日（水）小雨

多恵子堺病院で検診。美佐保と病院で出会って、かへり茶臼山へゆく。夜になって帰宅。無事。
留守に戎校の校歌を構想。

一月十九日（木）

バラに蕾をみつける、二つ。これで昨冬から四つ目である。
放送局へ電話をかけながら窓から発見。（この項二十日）
朝からラジオ評を書いて発送。
ロータリークラブの例会に出席、石川ガバナーの公式訪問。
レーキプラシッドに於けるガバナー・ノミニーの講習会について話があった。
電車で上阪。八原亭で食事、四時から南街ミュージックホー

ルでショーを観る（ハリスの招待）。終って車で桜橋「北京」でＡＢＣ放送の連中と御馳走になって、川上のぼる君のショオについて懇談、九時近く散会。市電でナンバへ出、十時すぎ帰宅。
留守にＮＨＫの衣笠君から電話。毎日から電話（ラジオ評の件）。おそくまで漫然と時をたのしむ。

一月二十日（金）晴　暖

衣笠君へ電話、二月八日、ラジオの社会プロについての懇談会に招かれたこと。ＯＫの返事。戎小学校の校歌を検討。けうで「松原松風」の放送終る。（ＮＨＫ）

一月二十一日（土）晴　暖

戎校の校歌出来上る。速達で送る。
角南浩氏へ手紙。戎校へ校歌。

一月二十三日（月）晴　暖　のち寒

羽衣出講。衣裳について語る。十二時すぎ下校、駅前で食事して上阪。松竹支社で「早春」の試写を見る。小野君と立話、すぐ別れてあとで審査会。平林、阪井、後藤ら、スイ選にきまる。
四時すぎ散会、出てみたら雪解のあとのように道がぬれて寒い風が吹いている。霰がふったそうだ。湊町へ出て、市電でエビス経由帰途につく。東湊で買ったばかりの夕刊二枚、風で吹きとばされて泥水に浸ってしまう。もう一度買いかえる。夜、人生案内を書く。

一月二十四日（火）晴のち曇　小雪　寒

調停。二件。昨年来棚上げになっていたもの。一つは取下げにし、一つは次回までに申立人の慰藉料請求の額をきめてくるようにする。帰途、市農水産課に寄って零細農のことを調べる。田島清に合ったら図書室というのが出来て、その方に勤めたという。
一時すぎ帰宅。風が出て雪が舞う。留守に「よみうり」と「がす灯」から稿料着。
夜、風やまず。人生案内一回執筆。人生案内―（結婚不履行）

一月二十五日（水）晴　寒

車で家庭才判所へ。旧臘来の婚姻不履行に対する慰藉料の問題、金額で不調、次回へ廻す。すぐ上阪、ナンバから地下鉄でＯＳ劇場へ。「シネラムホリデイ」の審査、「エリゼ」にて。帰途市電でエビス出る。
留守に朝日新聞の吉井君から二月の詩の依頼状。松下電器から電話でおたのみしたいことがある由の件。
二百円タクシー、二十円電話料、三十円週間誌、六十円タバコ、二十六円市電、十円夕刊、九十円歯みがき、計四百三十六円。

一月二十六日（木）晴　寒

堺化学の市村総務課長「さかえ」の寄稿の礼に来。ようかんと金二千円。

ロータリークラブ例会。そのあと会報委員会、論文審査会。

二時半から「父と子の会」今春学窓を出る高校生に対してロータリアンの人生論。四時半終って、高木勇氏の車で送ってもらう。

夜、朝日の詩を書く。大体のところをまとめて寝る。美佐保、隣組の会で木村へゆく。

一月二十七日（金）晴　寒

朝から朝日の詩を書く。ひる前出来上る。「二月は」すぐ発送する。松下の豊田氏午后来訪。女の子、座談会の司会を依頼。美佐保、昨夜来気になっていた茶臼山へ行こうとしているところへ、多恵子から電話で堺病院へ来ているのでこれから行くという。木下のお母さんと車で来。

木下のお父さん今夜から四月まで仮寓するという話。丁度無人で困っていた矢先ゆえ、安心。車で堺駅まで送らせる。不二家のショートケーキ一箱をもらう。

高島屋から二郎への贈物の白いスエーター着。多恵子の贈物也。

朝日へ原稿。よみうりから稿料。

一月二十八日（土）

家庭裁判所調停委員の新年会。十時から家調会の総会があり十一時半から睦会にうつる。折詰で祝宴。新谷老人の挨拶にアランのことばが出てくる。斬新也。堤判事とバチェラー論。名刺を注文、車で帰宅。風が募ってくる。砂けむり。午后季節風荒む。執拗を極むる寒風。

調停二千百三十円。百六十円車、百二十円車、九十円タバコ、十円電話。

一月二十九日（日）

寒風終日。今東光氏母堂の告別式に弔電を打つ。福田穂洲氏来訪、三笠一折をもらう。清水氏、上着をもってくる。春の雪の如き白さ。代、二千七百円。

毎日から稿料三千円。（※）。けさ日野草城死す（五十四才）。大川町時代の毎日俳句会で三高の学生だった彼。

二月一日（水）晴　寒

「二月は」けさの朝日に出る。

美佐保、茶臼山ゆく、終日。留守。ラジオ評を書く。うまく纒らず、夜に入る。八時前美佐保帰宅。

二月二日（木）晴　寒

朝来ラジオ評改稿。十一時出てロータリー例会に出席、大阪商船専務須賀川氏メーキアップに来られ、同卓で大連の話。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

昭和六年頃南山麓におられた由。新会員五人の紹介、銀行マン四人と植田君。並河さんの「くだものの話」桃が甘粛からきた話。
散会してすぐ上阪、三時から新東宝試写室で「何故彼女らはそうなったか」を観る、野々村律子君が新人として出ている。丸亀城を背景にして不良少女、学園の物語。終って「エスクワイヤ」で審査会。推薦と決定。
車で茶臼山へ、木下父母来てい食事をともにする。一郎少しおくれて帰宅、歓談。風呂を焚いてもらって入浴。別人のごとく快よくなる。十時別れて帰堺。二月分二分の一、五千円を渡す。よく冷える夜だった。
青野さん広島から帰宅、土産に牡蠣一樽、鉄道便で着。
ラジオ評を毎日新聞へ送る。
タクシー大ビル―茶臼山三百円、市電二十六円、夕刊四円。
多恵子渡五千円。

二月三日（金）晴　寒

今年第一の寒さ。手水鉢の水にざらめのような薄氷。
二時前上阪。松竹支社で「ロメオとジュリエット」の試写。阪口久子さんと支社の前で会って観る。バレー映画でビトレスクだが、あまり面白いものではない。終って久子さんと別れ（おばさんに芥子餅をもたせてやる）、審査会。推薦と決定。（鳥海、外村氏他）
湊町から市電でエビスへ出て（途中ナンバで一寸下車）帰堺。電車の中で節分の日本髪、子供のお化を見る。
夜、美佐保、二郎へ送る小包をつくる（多恵子からのスエーター）。
人生案内出づ。
時計竜頭修理八十円、タクシー八十円、芥子餅三百円、市電二十六円、夕刊三種十四円、計五百円。

二月四日（土）晴のちくもり　寒さやゝやわらぐ

二月に入って不活潑。伊丹の自衛隊から電話、隊歌について批評の依頼。千代田光学から電話。家庭裁判所から電話。商工会議所から電話。美佐保二郎へ送る小包を本局まで出しにゆく。
午后、人生案内を執筆。ロータリークラブの原稿を印刷屋に渡す。毎日の夕刊にラジオ評が出る。
夕方豆まき、美佐保船待神社まで年木と豆を納めにゆく。
ラジオ評出づ。読売年鑑へ回答。住友銀行へ回答。人生案内を送る。

二月五日（日）暖

立春大吉。朝の新聞から詩の稿料五千円着。
暖い陽気。十一時すぎ招いた藤井母来訪。乳守温泉の開場式

につれ立って赴く。途中、阿弥陀寺へ墓まいり。留守に江村峰代来訪、菓子一折。ゆきちがいに美佐保ら風呂からかへる。紀念品に折詰と酒。
夕方から鋤焼をして会食。ガラス、ゆげで淡くけむる。土産に折をもたせてやる。
一時しぐれしたが夕方から晴れる。

二月六日（月）晴
羽衣出講。

二月七日（火）晴
調停、十時からと一時の二回。朝の件無期延期、午后からの分、慰藉料六万五千円で妥結。
中食百円、名刺四百円。

二月八日（水）晴
午后上阪、NHKにて社会番組懇談会。近藤文二、菅原昌人氏らと局側、二時から四時まで、いろんな意見。
車でアベノ、電話をかけて家と連絡の上、薄暮帰宅。多恵子風邪で寝ているという。
収　千二百七十五円よみうり、千五百円NHK、千五百円なにわ、計四千二百七十五円。
支　百八十円タクシー、二十一円電話、七円切手、十円新聞、三十円週間誌、十三円市電、計二百六十二円。

二月九日（木）晴　烈風
季節風荒む。ロータリーの例会。一月号特集出来。
帰宅。いれちがいに美佐保茶臼山ゆき、留守一人。
八時すぎ美佐保帰宅。
風荒み、部屋に入ってくる。幕を張って防ぐ。多恵子、大したことないが咳が出るので安静にしている由也。
高島菊子にアルバムを送る。
高島菊子に書物送ル五十五円。

二月十日（金）晴　寒風
寒風吹き荒む。読売から原稿料一回着。午后、ヒッチコック映画「ハリーの災難」の試写でフィルムビル行。ニューイングランドのもみぢの山野の風物美しい。スリラーはあっけなく、意気込んだほどでなし。それよりもフィルムビルの自動エレベーターの方がずっとサスペンスに富む。
淀屋橋の上で五時過丁度日が屋根の向うに落ちたところ、堺筋経由の市電でエビスへ出て、日がとっぷり昏れた堺へ帰る。家に落ついたら六時四十分だった。
美佐保二郎へエアメエル。それと入れちがいに心理学の教授から美佐保宛に二郎の近況を知らせてきたいい手紙が航空便でついていた。けふの上阪七十二円の支出ですむ。いつもこのようだといいという。夜に入ってさすがに風おちる。

ハンス・カロッサの詩の朗読を聴く（ＮＨＫ第一）。深い安堵感とはげしい慰藉の思。美しいレトリック「髪白き旅人はよもぎ草の中に骨壺を拾う」

隣人より「蕗のとう」到来。人生案内出づ。

千二百七十五円よみうり。

支出　二十円定期入、十五円市バス、十三円市電、十円夕刊、十円電話、四円切手、計七十二円。

同日

大江橋の橋の凸角にガラスの破片、見上げて橋灯のガラスが破れていることを知る。寒い川風が吹いている。ハードボイルド風景である。知らない間にバスの停留所が市庁前から徹去されていて淀屋橋のところにもない。堂ビル前へ移っていることを橋の袂の女の子の夕刊売からきく。

二月十一日（土）晴　風少し

二日間の風でジャリジャリの客間を掃除。毎日新聞からラジオ評の稿料着。西鶴の諸国咄を読む。

夜鳳校の先生来訪。もう臥たあとだったので、依頼されてあった色紙を渡して帰って貰う。今日来訪の約束だったが、こんなにおそくくるのは非常識である。

収入、三千円ラジオ評。

二月十二日（日）晴　風少し

午后、詩を纏め上げる「マラゲニア」。「日本未来派」に送る。

高島菊子から手紙で「規那」に感動したということ。

きのうもけうも電話一つも鳴らず。

旧正月で、餅をくってノドにつめて死んだ人の記事が夕刊に出ている。

少しくいい気になって怠っていた仕事を（本来の仕事を）しようと決心する。

火鉢に珈琲を煮て。

二月十六日（木）

人生案内一回執筆。夜。

二月十七日（金）晴

寒風再び来。「滅びゆく大草原」を書く、途中藤井母来。

創元社から詩人双書のプラン、自選をやめ作家或は批評家に依頼することになる。自分の分井上靖さんをたのむことにして早速社へ返事。

午后、「なにわ」の詩選評。三時から調停、男の方から六万五千円慰藉料として女に渡し成立。女側の弁護士滝川氏立会。役所のところで堀畑氏の車に出会い、家まで送ってくれる。

夕方藤井再び来、夕食を共にしてから帰らせる。

夜井上靖氏に依頼の手紙。創元社へも手紙。

夜電話、羽衣の卒業生で大家多恵子から、土筆保育園の園歌

を作ってほしいといってくる。
二月十八日（土）晴
創元から行ちがいに、編者に井上靖氏はいかがといってくる。
（※）君から子供入学したといってくる。あぶなく入った由。
あとで土井先生からもその電話。
美佐保午后茶臼山行。
夕方、宮城道雄氏の詩を校訂する。毎日の夕刊にラジオ評載る。夜、人生案内を書く。よみうりから電話、仕事の依頼。
二十日「エトワール」で会うことにする。
二月十九日（日）晴　寒　薄氷
千二百七十五円よみうり。
二月二十日（月）曇
正午、上阪、エトワールで、読売の小坂仁史氏と会う。PRの頁、よみうりホームセクションのための詩の依頼。
一時半、車で松竹支社へ送ってもらう。吉田の留さんに会って信濃橋へ電話、多恵子来ていて「泉」の試写見たいという。
玄関で待ち合せて一緒に見る。有馬稲子。
終って多恵子に別れて、審査会。一般選定と決定。湊町へ出、ナンバ経由、高野線で帰る。羽衣の生徒に遭う、YMCAでテーブル・マナーの稽古のかえりだといって。
支出、百五十円タバコ、十九円夕刊、十三円市電、三十円週間誌、二円マッチ、計二百十四円。
二月二十三日（木）晴
理髪。十一時すぎ堺クラブに行く。中田君と会う。紹介を依頼される。十二時すぎロータリークラブ例会に出る。ロータリークラブ創立の記念日で葡萄酒で祝杯。
泉大津戎校からの迎えの車で中座、途中羽衣で野口源次郎君をのせ、二時前学校着。校歌発表会。作詞者の感想をのべる。
幼い子供が一心に歌っている姿に感動する。
会終って応接室で関係来賓と挨拶、そのあとで車で小松荘で設宴、先生達も一緒で二階の大広間で祝杯をあげる。いろんな人からいろんな挨拶。
とっぷり日が昏れて一同に送られて車で帰宅。折詰をさげて。
丁重な接遇で、茶谷PTA会長本統によろこんでゐられる。
大津ゴム会社の人事課長から社歌の依頼。穴師校も校歌をとの話。そのほか今一人の老人も息子のやっている会社の歌をとのことだった。
収入　一万円戎校。三千円がす灯。
支出　百円鉛谷嬢せんべつ、百五十円タバコ、九十円タバコ、二百円散髪、十円新聞、計五百五十円。
二月二十五日（土）晴
よみうりから二回分の稿料、毎日からラジオ評の稿料、書留

で着。夜、よみうりホームセクションの詩を試みる。どこか。

二月二十九日（水）晴　寒

「春の告知」をまとめ上げて読売へ送る。

三時ごろ突風、急霰到る。日照りながら。日本海の低気圧がもたらした寒冷前線のため。

三月五日（月）晴　暖

奈良行。ＡＢＣ依嘱の録音構成「お水取」取材のため。

十二時近く車迎えにくる。ＡＢＣで一行と落合、太田プロデューサー、北島制作次長、他に技術と報道の青年、みんなで六人。車で一時すぎ出発。奈良二月堂着、録音の設備をすませて四時すぎ若草山麓の旗亭で夕食。七時から礼堂控え間でまつ。大仏の鐘、初夜の刻を告げ行事はじまる。勾配ある回廊を松明馳せ上ってくる……。

午前二時終って車で旅館「三山」へ帰り、夜食して寝につく。

堂童子稲垣氏に会う。

三月六日（火）雨

十時すぎ起きる。小雨が道をぬらしている。家と電話。朝食兼午食をすませ、二月堂へゆく。録音。手向山八幡に詣ず。

四時一旦帰宿、ＡＢＣの迎えの車を待ち、夕刻奈良を出発、帰阪。途中から雨はひどくなる。

茶臼山で一行と別れて、多恵子と食事して十時近く帰宅。一郎明日病院で諸検査終るはず。

三月七日（水）晴

一郎、美佐保、病院ゆき。留守にお水取の原稿を書かんとしているところへ太田寛治君来訪、すぐ帰る。

ひるまへ一郎ら帰宅。結果安心。午后、鋤焼で食事。誕生日の前夜祭の意をもって一郎ら茶臼山へ帰る（車）。

三月八日（木）晴

羽衣の卒業式なれど仕事でゆけず、電話で欠席を通知。

美佐保に「春を呼ぶお水取」の原稿を清書してもらい一時過ぎＡＢＣへ行く。福田報道課長にお茶をよばれているところへ太田プロデューサー出勤してくる。原稿を渡し堀越氏からホームソングの校訂料を受領。車でナンバへ。どこへも寄らずに帰宅。

ロータリー・クラブ例会欠席。

五千九百五十円ＡＢＣ稿料。

三月九日（金）晴　寒し

五十八才の誕生日。家庭裁判所へ調停で出勤。正午終って車で堺病院で一郎のくすりをとり車で帰宅。留守に島谷富美子さん、アラセイトウ、カーネーション、青い麦の穂などの花をもってお祝に来てくれる。美佐保とたのしい話。

午后美佐保、赤飯と鯛などをもって茶臼山へゆく。入れちが

いに彼らから祝電。藤井母から祝の手紙。
夜、美佐保帰宅。ウイスキーで祝膳につく。木下節子、昌子お祝に来訪、不二家のデコレーションケーキにクロワシのネクタイをくれる。ウィスキーで祝杯。十時まで歓談。車をよんで堺駅まで送らせる。久子さんにゴッホ、節ちゃんにマチス、昌ちゃんにモヂリアニの小画集を署名して贈る。その他花をもたしてかえす。
いわゆるバラバラの誕生日也。

三月十日（土）晴　寒
連ぎょう二輪。

三月十二日（月）曇　雪
お水取の天気、曇って寒い天からひる頃飛雪舞う。
午后、伊丹自衛隊の香川陸尉ジープで来訪。隊歌について先日委託の原稿校訂を依頼してゆく。

三月十九日（月）甚雨
住宅公団の申込、役所で。第一号である。上阪、ナンバからタクシーで警察病院へ。井上院長に会う。室の前で鈴木栄二君と出会う。二ケ月ほど入院していたという。事務長の案内で「桃山」で午餐をよばれる。院長あとから来。
一時すぎ車で茶臼山まで送ってもらう。一郎けさから出勤。
多恵子としばらく話。二三日来の暖さで木蓮がまっしろに咲いてゐる。こうして雨の庭を見ていると、この家は悪くない。
市電でナンバへ出、三時すぎ帰宅。留守に植田英二君から電話で、今夜辻木氏設宴の泉谷君の送別宴の案内。けさからの雨で電話不通、やむなく、郵便局から連絡して、五時会議所で落合うことになる。五時田辺氏と三人で上阪、玉屋町の「西尾」に到る。泉谷君すでに在り辻本英一氏の招宴に連る。妓数人、十一時まで遊ぶ。車で帰堺、十二時近く。

三月二十日（火）
電話依然不通。十時から夕陽ケ丘会館で「社会教育をかう考える」のシンポジアム。低調な会だった。正午すぎ終る。同講師の米良君とナンバへ出「エトワール」で雑談。
四時すぎ帰宅。電話夕方から回復。二日つづけの外出でつかれて早くねる。
東宝から敷島シネマの落成式のための詩をたのんでくる。
千二百七十五円よみうり、千二百七十五円社教委。

三月二十一日（水）晴
人生案内出づ。

三月二十四日（土）
南陵婦人会でコレスポンデンスについて講演。謝礼二千円他に車代五百円。

三月二十五日（日）小雨　風強し

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com